

腹腔鏡下子宮全摘術を

受けられた経験のある患者さんまたはご家族の方へ

臨床研究に対するご協力をお願い

愛媛県立中央病院では、2019年11月より2021年10月までに腹腔鏡下子宮全摘術を受けられた方の診療情報(カルテ情報)を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。

本研究への協力を望まれない場合などは、その旨、以下の「問い合わせ先」までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

腹腔鏡下子宮全摘術における超音波ガイド下神経ブロックの方法と術後鎮痛効果に関する検討

【研究の目的】

腹腔鏡下手術は、低侵襲であり早期離床が可能なことから、近年増加しています。

また、超音波ガイド下神経ブロックは安全に施行できるようになり、開腹手術、腹腔鏡手術を問わず広く行われるようになりました。

当院では腹腔鏡下子宮全摘術の術後鎮痛には、フェンタニルを用いた経静脈的患者自己調節鎮痛法(intravenous patient-controlled analgesia:IV-PCA)を行っていますが、全身麻酔後に超音波ガイド下神経ブロックも併用されています。今回、超音波ガイド下神経ブロックの方法の違いが術後鎮痛効果にどのような差をもたらすかを、術後初回鎮痛薬使用、フェンタニル持続投与量、術後悪心嘔吐の有無と程度などを後ろ向きに診療録(カルテ)および調査票から抽出し、調査することを目的としています。

【対象となる方】

2019年11月より2021年10月までの間に産婦人科で腹腔鏡下子宮全摘術を受けられた患者さん

【使用する検体・診療情報】

カルテ情報:診断名、年齢、性別、麻酔記録、看護記録

術後鎮痛薬追加の有無・術後初回鎮痛薬使用時間・術後悪心嘔吐の有無と程度

【研究期間】(承認後)から2022年08月31日

【個人情報の取扱い】

使用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定できる個人情報は削除します。

また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

愛媛県立中央病院

麻酔科・集中治療科 藤谷 太郎

【問い合わせ先】

松山市春日町 83 番地

愛媛県立中央病院

麻酔科・集中治療科 入澤友美

電話 089-947-1111